

カイリキ® Z1 キロ粒剤

■種類名：イプフェンカルバゾン・テフリルトリオン・プロピリスルフロンの粒剤	
■有効成分：イプフェンカルバゾン	2.5%
テフリルトリオン	2.5%
プロピリスルフロンの	0.90%
■化管法指定物質：イプフェンカルバゾン [第1種]	2.5%
テフリルトリオン [第1種]	2.5%
1,1,1-トリフルオロ-4-ヒドロキシ-4-(4-ヒドロキシフェニル)ブタン-3-オン [第1種]	1.8%

■登録番号：第24432号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)
■登録初年：2020.10.28
■性状：淡褐色～褐色細粒
■有効年限：3年(担い手直送規格は2年)
■包装：1kg×12袋、10kg×1袋 40kg(担い手直送規格)

【特長】

- ノビエ等の一年生雑草から多年生雑草まで幅広いスペクトラムを有する水稲用一発処理除草剤。
- オモダカ、クログワイおよびコウキヤガラなどの多年生雑草に対する効果が高い。
- イプフェンカルバゾン含有しており、ノビエに対し長期残効性を示す。
- テフリルトリオンとプロピリスルフロンを含有しており、SU剤抵抗性のホタルイ、オモダカ等にも高い効果を示す。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	イプフェンカルバゾンを含む農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg /10a	1回	田植同時散布機で施用	2回以内	2回以内	2回以内
		移植直後～ ノビエ3葉期 但し、 移植後30日まで			湛水散布 又は 無人航空機 による散布			
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ノビエ3葉期 但し、 収穫90日前まで						

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレグが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈20cmまで(直播水稲は15cmまで)、ヒルムシロは発生期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、セリは再生期まで(直播水稲は増殖期まで)、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前、オモダカはヘラ葉抽出期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生の期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 苗の植え付けが均一となるよう、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種別の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 粒剤散布装置については、事前に薬剤の物理性に合わせてメタリング開度を調整するとともに、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラ(スピナ)の回転数を低速に調整すること。

- ◆ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から5 m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
- ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2 cm/日以上）
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
 - ◆ 散布後に高温傾向が続くと予想される時
- 活着遅延が生じるような異常低温及び寡照条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- 著しい多雨条件では、除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。